

# 好評発売中!



日本100名城 27 上田城

上田に進出した真田昌幸が、天正11年(1583)頃に築城に着手。同13年、上州沼田領の帰属をめぐる徳川家康と対立。攻め寄せた7千の徳川軍主力部隊を、わずか2千の勇兵で翻弄し、その名を天下に轟かせた。慶長5年(1600)、上方へと向かう徳川秀忠3万8千の兵が、再び上田城を取り囲んだ。わずか2千5百の兵で得意のゲリラ戦を展開し、またも大軍を足止めし、再びその名を天下に鳴り響かせた。戦後、徳川方により城は破却されたが、寛永3年(1626)仙石忠政の手によって修復され、今見る城の姿が完成。その後、松平氏が入封し、以後七代の居城となった。

所在地	長野県上田市二の丸
別名	尾ヶ淵城、伊勢崎城、松尾城、真田城
築城年代	天正11年(1583)
築城者	真田昌幸
主要城主	真田氏、仙石氏、松平(藤井)氏
指定文化財	国指定史跡
現存建造物	南櫓・北櫓・西櫓(長野県宝)
再建建造物	本丸東虎口櫓門

尾ヶ淵から望む本丸  
市街地化により尾ヶ淵は埋め立てられ、千曲川も流路が変わってしまったが、断崖上に築かれた面影が残り、かつての要害地形を今に伝えている。本丸南西隅に位置する西櫓(5間×4間の二重櫓)は、明治7年(1874)の取り壊しを免れた唯一の櫓だ。昭和18年(1943)～24年にかけて、民間に払い下げられていた北櫓、南櫓が、再び城内へ移築復元され、城跡にしがが着すこととなった。平成6年には、古写真・発掘調査成果等を基に本丸東虎口櫓門を復元、仙石・松平時代の城の姿が徐々に取り戻されつつある。

◎(公財)日本城郭協会

販売価格

350円(税込)

日本100名城